

「つなげて探究」読み解く

記事から仮説

記事から仮説

読み解いていく手法で「実社会を題材に、子ども自身が「なるほど」を見つめられる」と、受講教員目ざが「社会を題材に探究につなげる手法を学んだ」。

5、12、13日に開かれた研修の中の二章で、小中・高・特文（栄養・養護教員）に計250人が受講。福井新聞みんなの新聞推進室の菊野昭彦室長が、「おおて連転」[ながて連転]の規制転車を例に、「つなげ



初任研修で情報をつなげて社会の動きを知る手法を学ぶ
参加教員＝12日、若狭町の県立三方青年の家

とて、探究的な学びにつながるということが理解できた『新聞を教材として、子どもと流れや背景を考えることができた』と楽しそうだった。など振り返っていた。

(みんなの新聞推進室)

フレンド、その機会も取り入れて、受講者が多数で過んだの、化学を題材にした記事が「探究」一紙だけで、記事一つ、なぜか説く」と「現在、社会全体、の転換期にあるという全体がつかめぬ」と言ふんだ、蜀野直志は、ある日、く「A」とも引合は、に出く「A」ともつかないに気付くと、は、なるほど」と、と出は出る、と葉しい。子ども自身が社会事件をつなげてその授業を増し、社会に想いながら考える、ことが美しい」と子どもを育ててほしい」と激励

受講した教員は「記事を点



「な
張つ
たよ
國が
文化
トガ

「おや上手」「頑
に」「すてきだ
に」にうけるこ
も自らまた多し
「多」本の中のル
語「典」に、
の一覧表が22
となりました。そして
「これっていい?」「お
ききやうや声のか
へ」にうけるこ
へ」にうけるこ

E V車`接近音`を体験



EV車の接近音を、実車近くで確認する生徒たち。6日、県立盲学校

速度に、音色の変化や、停車中の
接近通知、走行中、エンジンの
代り急鳴らす仕組が備わって
おり、安全教室には装置開発など
を手がけるオーストリア・クニツァ
に、接近通報音は、高齢者で聞き
取やすいこと、2種類の間周波
数、音を出している。同社によ

県盲学校が交通安全教室

「エンジン音のない電気自動車は近くまで来ないと分からない」「福井は都会と違って人や車は少ないけれど、逆に人や車の気配がまったくない場合、交差点の状況がつかめなくて不安な点も」。県立富田学校で6日、増加してい

る電気自動車などエンジン音のないEV車の接近に生徒が気付けるようにと、「音で学ぶ交通安全教室」が開かれた。EV車の「接近音」体験や、視覚障害者用に振動で青信号を伝える信号機などを体験した。

(菊野昭彦)

振動で「青」伝える信号機も



青の間は頭部が振動する信号機を試す生徒

当者に対し生徒が「福井にはこうした信号機は付かないのですか」と要望する場面もあった。

「チーム学校」手法学ぶ

不登校へ地域、福祉機関など連携

生徒支援へ事例検討



「チーム学校」研修会で話し合った
教員ら＝6日、福井市の県生活
学習館

不登校などで支援が必要な児童生徒を、学校教諭だけでなく市町、支援センター、スクールソーシャルワーカー（SSW）らがさまざまな視点と立場から支援していく取り組み

み「チーム」学校の本年度研修会は約10人、スタッフとした初回は約20人、数人づつが事例検討などを通じ、力量向上や各役割「連携」法を学んだ。

「チーム」学校では必要に応じて地域や子ども、福祉機関などと連携し、子どもたちの抱える課題解決を図っていく。

研修会では、県教育総合研究所、教育相談センターが主幹、参加者がそれぞれの役割を理解するとともに、事例検討箇所などを通して、力量向上を図るもので、本年度は6回の開催を予定した。

本年度の講習会は、センター所員が担当するミニレク

「学びis」は学びを深める教育の取り組みを紹介するコーナーです

[illegible]